

平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年8月8日

上場会社名 株式会社ゼンショーホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 7550 URL <http://www.zensho.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長兼CEO(氏名) 小川 賢太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部長 (氏名) 丹羽 清彦 (TEL) 03 (6833) 1600
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	141,816	10.4	3,520	33.9	3,526	61.3	1,742	146.3
29年3月期第1四半期	128,439	1.8	2,628	792.5	2,185	928.9	707	—

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,029百万円(—%) 29年3月期第1四半期 △726百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	11.75	—
29年3月期第1四半期	4.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	289,413	81,634	23.3	455.39
29年3月期	288,999	82,107	23.5	458.07

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 67,509百万円 29年3月期 67,905百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	9.00	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	297,369	10.7	12,068	13.3	11,498	14.9	6,359	29.3	42.90
通期	595,180	9.4	21,692	15.5	20,676	14.5	9,660	14.4	65.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	149,640,445株	29年3月期	149,640,445株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	1,396,343株	29年3月期	1,396,423株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	148,244,096株	29年3月期1Q	149,180,112株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確かな要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は添付資料の4ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2017年4月1日から2017年6月30日)におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景として緩やかな景気回復基調で推移いたしました。一方で米国経済の動向やアジア新興国・欧州経済の動向など、世界経済の不確実性の高まりにより、先行き不透明な状況が続きました。

外食産業におきましては、個人消費に持ち直しがみられるものの、労働需給はタイトな状況が続いており、厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、「すき家」をはじめとする牛丼カテゴリーの既存店売上高前年比は104.1%、「ココス」、「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリーの既存店売上高前年比は101.0%、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリーの既存店売上高前年比は100.9%となりました。収益面につきましては、既存店売上高の増加により、前年対比増益となりました。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、51店舗出店、22店舗退店した結果、4,910店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,418億16百万円(前年同期比10.4%増)、営業利益35億20百万円(同33.9%増)、経常利益35億26百万円(同61.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益17億42百万円(同146.3%増)となりました。

セグメント別の概況につきましては、以下の通りであります。

① 外食事業

外食事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は1,200億61百万円(前年同期比6.0%増)、営業利益は31億90百万円(同31.1%増)となりました。

外食事業における主要カテゴリーの状況は、以下の通りです。

(牛丼カテゴリー)

牛丼カテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、30店舗出店、10店舗退店した結果、2,701店舗となりました。内訳は、「すき家」1,958店舗、「なか卯」461店舗(F C13店舗含む)等であります。

株式会社すき家本部が経営する牛丼チェーンの「すき家」につきましては、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマとして、低糖質で食べごたえのある米粉入りコンニャク麺を使用した「ロカボ牛麺」(並盛税込490円)、「ロカボ牛ビビン麺」(並盛税込590円)や「なすアラビアータ牛丼」(並盛税込490円)を導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。また、「うな井」(並盛税込780円)や「うな牛」(並盛税込880円)などのシーズナル商品も導入いたしました。

今後ともお客様に愛される店舗づくりを目指すとともに、安全でおいしい商品を安心して召し上がっていただけるよう、店舗水準の向上と品質管理の徹底に努めてまいります。

株式会社なか卯が経営する井ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、牛丼カテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、488億79百万円(前年同期比6.8%増)となりました。

(レストランカテゴリー)

レストランカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、8店舗出店、9店舗退店した結果、1,361店舗(F C78店舗含む)となりました。

株式会社ココスジャパンが経営するスタンダードレストランの「ココス」につきましては、メニューのラインアップの強化、ごちそう感のあるフェアメニューの投入および店舗のサービス水準の向上に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ビッグボーイジャパンが経営するハンバーグ&グリルレストランの「ビッグボーイ」等につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図るとともに、サラダバー・スーパバーの充実やフェアメニューの投入を行うなど、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ジョリーパスタが経営するパスタ専門店の「ジョリーパスタ」につきましては、「パスタならジョリーパスタ」をテーマに、パスタ専門店の魅力をよりお客様へアピール出来るよう、メニューのラインアップの拡充や旬の食材を活かした新商品の投入を行い、一層のおいしさを追求してまいりました。

株式会社華屋与兵衛が経営する和食レストランの「華屋与兵衛」につきましては、お客様の満足度の向上を図るため、旬の食材を活かした商品の開発および店舗従業員の教育強化によるサービス水準の向上、労働生産性の改善等に努めてまいりました。

以上の結果、レストランカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、316億1百万円(前年同期比1.4%増)となりました。

(ファストフードカテゴリー)

ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、13店舗出店、3店舗退店した結果、716店舗となりました。

株式会社はま寿司が経営する回転寿司の「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

以上の結果、ファストフードカテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、315億59百万円(前年同期比6.2%増)となりました。

(その他カテゴリー)

その他カテゴリーの当第1四半期連結累計期間の売上高は、80億21百万円(前年同期比21.0%増)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、冷凍ピッツァ等販売の株式会社トロナジャパン、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

② 小売事業

小売事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は、217億55百万円(前年同期比43.7%増)、営業利益は3億28百万円(同69.3%増)となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ、株式会社尾張屋、株式会社フレッシュコーポレーション及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等であります。

(2) 連結財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は2,894億13百万円となり、前連結会計年度末から4億14百万円増加いたしました。これは、主に新店投資による有形固定資産の増加等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は2,077億79百万円となり、前連結会計年度末から8億88百万円増加いたしました。これは、主に有利子負債の増加等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は816億34百万円となり、前連結会計年度末から4億73百万円減少いたしました。これは、主にその他の包括利益累計額の減少等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年3月期の業績予想につきましては、2017年5月11日発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2017年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,274	23,647
受取手形及び売掛金	6,399	6,112
商品及び製品	18,471	18,007
仕掛品	752	729
原材料及び貯蔵品	4,355	4,448
その他	16,207	16,371
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	68,450	69,304
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	181,641	184,093
減価償却累計額	△102,276	△104,160
建物及び構築物（純額）	79,364	79,932
機械装置及び運搬具	12,755	13,247
減価償却累計額	△6,772	△7,004
機械装置及び運搬具（純額）	5,982	6,242
その他	90,248	92,513
減価償却累計額	△45,601	△46,375
その他（純額）	44,646	46,137
有形固定資産合計	129,993	132,313
無形固定資産		
のれん	18,928	19,607
その他	2,971	3,038
無形固定資産合計	21,899	22,645
投資その他の資産		
投資有価証券	3,570	865
差入保証金	33,116	33,049
その他	31,887	31,165
貸倒引当金	△14	△14
投資その他の資産合計	68,561	65,065
固定資産合計	220,454	220,024
繰延資産	93	84
資産合計	288,999	289,413

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2017年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,046	17,658
短期借入金	2,662	7,646
1年内償還予定の社債	4,925	3,125
1年内返済予定の長期借入金	43,485	37,677
未払法人税等	2,491	687
引当金	1,869	1,265
その他	28,334	36,370
流動負債合計	102,815	104,431
固定負債		
社債	10,580	10,580
長期借入金	75,492	73,480
退職給付に係る負債	570	584
資産除去債務	2,396	2,416
その他	15,036	16,287
固定負債合計	104,075	103,348
負債合計	206,891	207,779
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,470	23,470
資本剰余金	24,261	24,261
利益剰余金	21,967	22,336
自己株式	△2,021	△2,021
株主資本合計	67,677	68,047
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	541	△43
繰延ヘッジ損益	51	△129
退職給付に係る調整累計額	△36	△34
為替換算調整勘定	△327	△330
その他の包括利益累計額合計	227	△538
非支配株主持分	14,202	14,125
純資産合計	82,107	81,634
負債純資産合計	288,999	289,413

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)
売上高	128,439	141,816
売上原価	54,515	62,212
売上総利益	73,924	79,604
販売費及び一般管理費	71,296	76,084
営業利益	2,628	3,520
営業外収益		
受取利息	101	100
受取配当金	2	1
受取賃貸料	57	56
為替差益	—	154
その他	147	148
営業外収益合計	309	460
営業外費用		
支払利息	293	222
賃貸費用	34	36
為替差損	233	—
その他	190	194
営業外費用合計	751	453
経常利益	2,185	3,526
特別利益		
固定資産売却益	0	3
投資有価証券売却益	—	94
受取補償金	—	31
その他	12	23
特別利益合計	12	152
特別損失		
固定資産売却損	0	2
固定資産除却損	246	300
その他	182	134
特別損失合計	428	438
税金等調整前四半期純利益	1,769	3,240
法人税、住民税及び事業税	421	656
法人税等調整額	495	795
法人税等合計	917	1,452
四半期純利益	851	1,788
非支配株主に帰属する四半期純利益	144	46
親会社株主に帰属する四半期純利益	707	1,742

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)
四半期純利益	851	1,788
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28	△585
繰延ヘッジ損益	△580	△180
退職給付に係る調整額	1	1
為替換算調整勘定	△1,028	4
その他の包括利益合計	△1,578	△758
四半期包括利益	△726	1,029
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△858	983
非支配株主に係る四半期包括利益	132	46

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	113,303	15,136	128,439	—	128,439
セグメント間の 内部売上高又は振替高	675	25	701	△701	—
計	113,979	15,162	129,141	△701	128,439
セグメント利益	2,434	194	2,628	△0	2,628

(注) 1. セグメント利益の調整額△0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	120,061	21,755	141,816	—	141,816
セグメント間の 内部売上高又は振替高	615	5	620	△620	—
計	120,676	21,760	142,437	△620	141,816
セグメント利益	3,190	328	3,519	0	3,520

- (注) 1. セグメント利益の調整額0百万円には、主にセグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。